

## 信仰告白

この頃、一連の討論と対話の中で、諸方面の方々から、私たちの信仰の告白、イエス・キリストを救い主として受け入れた経緯、また、私たちの献身の姿勢と奉仕の意味について問い合わせがありました。使徒ペテロが、「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えて」(第一ペテロ 3 章 15 節)おくべきであると教えているとおり、私たちも私たちの抱いている希望について説明を要求する人たちに、私たちの信仰を告白したいと思います。

クリスチャントゥデイで働いている社員たちがそれぞれ異なる過程を経てきたとしても、皆が同じ唯一の救いの道に導かれて永遠のいのちを与えられた一人ひとりであることを先ず告白したいと思います。私たちは信仰によって救われましたが、真の「信仰」とは何を意味するのでしょうか。私たちは次のように教わり、心が熱くなりました。その信仰とは、私たちが罪人であるにもかかわらず、イエス様が私たちの罪を赦し、私の全てを受け入れてくださったこと。私の罪を代わりにご自身が背負われ、十字架の上で死なれ、復活してくださったことにより示された無条件の愛、その限りない恵み (Gratia) を確信し、受け入れることでした。ですから、私たちが告白する信仰の確信と私たちの得た自由は、唯一の道である主イエスから与えられたものです。「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」(ローマ 10 章 17 節) からです。では、私たちは何を伝え聞いたのでしょうか。それは、神様の啓示であるイエス・キリストの愛です。私の罪のために流された贖いの血、それだけが愛と恵みに富みたもう神様の完全な自己啓示であったことを私たちは知っています。

主が私を知っておられるように、私が主を知るようになるということです。(I コリント 13 章 12 節) 私たちは、この偉大な愛の喜ばしい知らせを福音と呼んでいます。私たちはその福音を心で信じ、口で告白して救いに至ったのです。罪から自由に至る唯一の方法は、ただ恵みによって、信仰によって、イエス・キリストによってのみであり、これ以外の道は一つとしてありません。この地上においてイエス様のお名前以外に私たち人間には与えられていないのです。そして、イエス様が救いに至る唯一の真理の道であり、いのちそのものです(ヨハネ 14 章 6 節)。キリスト教はこの基本的な信仰告白の上に建つ共同体ではないでしょうか。ですから、イエス・キリストの血の代価によって買い取られた教会であり、共同体です。これが私たちの信仰の告白です。

しかし、どこで私たちは信仰の道を踏み外すのでしょうか。救い的手段はイエス・キリストの十字架です。その十字架を別のものに置き換えたり、条件を付加させたりしてしまうとき、福音は変質し、腐敗します。十字架の意味を見失うとき、その共同体は異教と化してしまうのです。私たちはもう一度告白します。救いは、主イエス・キリストの恵みを知るただ一つの方法、すなわ

ち信仰によって (Sola Fide) のみ可能なのです。イエス・キリストは、神様の御姿であられる方なのに、私たちを救うために神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を卑しくし、罪深い地上に介入して来られ (ピリピ2章) ました。私たちを愛してくださり、その愛を余すところなく示され (ヨハネ13章1節)、人類の罪のためにご自分の命まで差し出されました。私たちは、神の御子の降誕と生涯、十字架と死、復活、昇天に至るその完全な神様の自己啓示の中でのみ神様ご自身を知ることができ、そのお方を通してのみ神様に至る道が示されていることを私たちは聞いて告白します。罪にけがれた私たちのために十字架を背負ってまでご自分を低くして無となられた、その謙遜さ (Kenosis)、へりくだった人だけが高く揚げられるという真理。そして全ての名に勝る御名はイエス様ただお一人であるという信仰を私たちは告白します。私たちは、この素朴かつ永遠に深いキリスト教の信仰告白の上に立っています。ですから私たちは、イエス・キリストの愛に借りのある者です。ユダヤ人もギリシア人も下僕も自由人も、誰も皆、例外なくイエス・キリストの愛に借りのある人々といえるのではありませんか。キリストの贖いの血によって救われた私たちは、一生を費やしても返すことのできない、その限りない愛に借りのある人々であると私たちは考えます。

張ダビデ牧師は再臨のキリストではありません。張ダビデ牧師は在日大韓イエス教長老会・合同福音教団宣教部が韓国の教団本部を通して聞いていた質疑に対し、次のように答えています。

ー以下引用ー

主イエス・キリストの恵みを賛美します。先日、在日大韓イエス教長老会・合同福音教団宣教部から韓国・大韓イエス教長老会合同福音教団を通じて私の信仰に関する問い合わせがありましたので、私が韓国の教団に送った信仰告白をお伝えいたします。

私はイエス・キリストの恵みによってイエスご自身を私の唯一の救い主として受け入れ、罪を赦された後、一度たりもイエス・キリストへの信仰を捨てたことはありません。

また、イエス・キリスト以外の福音を伝えたことも無く、ましてや自分自身をキリストと称したことなど一度もありません。

イエス・キリストの他に救いに至る道、自由に至る道がないことをはっきりと告白します。

そして、統一協会との関係は韓国キリスト教総連合会が韓国・合同福音教団に送付した公文書2通 (2004年7月6日、2005年9月6日) を参照してください。

ー以上引用ー

私たちの信仰生活と献身は、ただ私たちを救ってくださったイエス・キリストの愛を一人でも多くの人に伝えたいという私たちの「もがき」です。たとえ私たちがどのように見られているとしても、何とかして一人でも多く救われてほしいという願いの一片に過ぎないことを告白します。

(第一コリント9章22節) 聖書は神様の救いの歴史を私たちに教えています。救われた者の中には、主イエスに対する感謝があり、賛美と礼拝と宣教があり、主イエスとその福音を人々に伝えたいという熱い思いがあります。そして、究極的に、私たちの人生は、自分はずでに(already)救われましたが、まだ(not yet) 到来してない神様の御国に対する永遠の希望を抱いて生きる信仰の歩みであることを告白します。将来必ず地上に来られる主をただ待ちわびつつ、私たちはただ私たちに命じられた全ての国民を弟子としなさいという大宣教命令(マタイ28章19-20節)に従って生きているのであることを告白します。主が来られるそのときまで、私たちはただ神の御国を思い、神に生きることを許されている一日一日を敬虔に、熱心に生きることこそ、キリスト者の本望であることを告白します。使徒パウロが実存的な信仰生活について次のように語ったとおりです。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。(ピリピ3章12節)

この聖句をもって今日を生きる私たちの個人的かつ実存的な信仰を証したいと思います。そして、この告白を、キリスト者共同体の信仰として掲げていきたいと願っています。

Sola Fide Sola Gratia Sola Scriptura

東京都千代田区神田淡路町2-5 小川ビル3階  
株式会社クリスチャントゥデイ  
代表取締役 高柳泉